

第一章活用事例

小学校一・二年生版「心あかるく」
「ありがとう」 p.14
～
p.15

中心資料

小学校 道徳の指導資料 第二集 第二学年
昭和三十九年 文部省 「きつねとぶどう」

【主題名】 心からありがとう

第一学年及び第二学年 2-4

「日」の世話になっている人々に感謝する。」

【ねらい】 身近で、日」の世話になっている人々の存在に気付く。それらの人々に感謝し、日」にする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》一・二年生の時期の児童は、自分が多くの人に支えられながら存在していることに気付けないことがあります。日々の生活を支えてくれている人々の存在に気付いて感謝の気持ちをもつことや、その感謝の気持ちを言葉で伝えることの大切さを実感させることで、互いに尊重し合い、自分も誰かの支えとなっていることとする姿勢を身に付けさせることが大切です。



『心あかるく』の p.14 にある『ありがとう』の詩をみんなで音読しましょう。」

導入

○「ありがとう」を音読させ、感謝の気持ちを言葉に出して伝える大切さについて、道徳的価値への方向付けを行いましょ。

○教師が「きつねとぶどう」を読み聞かせましょ。



「母ぎつねがえさをとりに行ったとき、子ぎつねはどのような気持ちだったでしょうか。」

○子ぎつねの気持ちを考えさせることで、身近な人に世話をしてもらっているときの気持ちを考えさせましょ。



『「コーンあぶない。早くにげなさい。』と言われたとき、子ぎつねはどのような気持ちだったでしょうか。」

○逃がしてもらったときの子ぎつねの気持ちを考えさせることで、身近な人に助けてもらったときの感じ方や考え方を考えさせましょ。

展開

中心発問



『お母さんありがとう。』と言ったとき、子ぎつねは、どのような気持ちだったでしょうか。」

○子ぎつねに共感させることで、身近な人に世話になっていることに気付かせ、感謝の気持ちについて考えさせましょ。

《評価》 子ぎつねに共感し、身近な人に感謝する気持ちを深めることができたか。



「人のお世話になって、ありがとうと言えたことがありますか。それはどのようなことですか。」

○感謝する対象を、母親だけではなく、身近にいる他の人にも広げて考えられるようにましょ。

○「心あかるく」 p.97 「お世話になっている人に、『ありがとう』の気持ちをつたえよう。」に記入させ、今、お世話になっている人に感謝の気持ちを実際に伝えさせましょ。

○教師自身が、ありがとうと言われてうれしかった経験や、ありがとうと言えて気持ちがよかった経験を語りましょ。

板書例

きつねとぶどう

はぎつねが えさを とり に いったとき、こぎつねは どのような きもちだったでしょうか。

- はやくかえってきてほしいな。
- おなかですいたよ。
- いつもおかあさんばかりにとりに いかせてわるいな。

「コーンあぶない。はやくにげなさい。」といわれたとき、こぎつねは どのような きもちだったでしょうか。

- たいへんだ。はやくにげなくちゃ。
- おかあさんといっしょににげたいな。
- おかあさんはだいじょうぶかな。

母ぎつねが叫び、
子ぎつねが逃げて
いく挿絵

「おかあさん、ありがとう。」と いったとき、こぎつねは どのような きもちだったでしょうか。

空を見上げ、母ぎつねに感謝する 子ぎつねの挿絵

- ぶどうをもってきてくれたんだ。
- おかあさん、いまどこにいるの。
- いままでえさをくれてありがとう。
- おかあさんのおかげでいきていられる。

ひとの お世話になって、ありがとうといえたことは ありますか。
それは どのような ことですか。

- おかあさんにかんびょうしてもらってありがとう といった。
- おとうさんにおしごとをしてくれてありがとう といった。
- ならいごとのせんせいにおしえてくれてありがとう といった。

《評価》

自分自身の経験を振り返りながら、身近な人々に感謝し、その気持ちを伝えていこうとする気持ちをもつことができたか。

終末